



(禁転載)

# WAVE

大阪成蹊学園報

第20号

2011年11月30日発行

発行 学校法人 大阪成蹊学園  
法人事務本部広報部〒533-0007 大阪市東淀川区相川113丁目10番62号  
TEL. 06-6829-2500  
http://www.osaka-seikei.ac.jp/

## アート&デザイン・コンペティション

# 「未来への発信」テーマに

大阪成蹊大学芸術学部の相川キャンパス移転記念イベントとして、大阪成蹊女子高校美術・イラスト・アニメーションコースとの共催で開催された「大阪成蹊アート&デザイン・コンペティション」(毎日新聞社後援)の審査が10月22日に行われ、受賞作品が決定しました。また、結果は今日4日付の毎日新聞紙上で発表され、表彰式が19日、相川キャンパス南館ギャラリースペースで行われました。

未来のための人材発掘を目指す同コンペは、「未来への発信」をテーマに近畿圏内の中学生、高校生を対象に7~9月、作品を募集。中学生の部110点、高校生の部590点の応募がありました。A(中学生は美術作品、高校生はビジュアル

デザイン・イラストレーション)、B(中学生はイラストレーション、高校生はアニメーション・映像)、C(キャラクター・漫画)、D(中学生はファッションデザイン、高校生はファッション・インテリア・プロダクトデザイン)、E(美術・工芸=高校生のみ募集)の5部門で審査の結果、中学生の部のグランプリは大阪府高槻市立第九中学校3年生、吉田紗知子さんの「解放サレタ、さあ……」(B部門)に決定。高校生の部は大阪府立成城高等学校2年生、長渡千佳さんの「Change your mind」(A部門)が選ばれました。

受賞作品は、12月3日まで相川キャンパス南館1Fギャラリーで展示されます(日曜・祝日休廊)。

## 受賞作品決定

### グランプリ作品講評

#### ●中学生の部

澤田克之氏(大阪成蹊大学芸術学部長)

描写力、構成力ともに安定しているが、色彩表現の力強さが何よりも他の作品を圧倒しており、図書館(古い情

報のたい積)を打ち破って飛び立つキャラクターに重ねられた作者の気持ちがよく伝わってくる。

#### ●高校生の部

佐野研二郎氏(アートディレクター/クリエイティブディレクター)

いい意味で高校生っぽくない。「花と女性」の組写真は特に珍しいわけではない。でも花をカラーにし、女性をモノクロにすることや花に虫を止まらせたり、水滴をつけたり、女性が少し泣いているようだったり、見れば見るほど惹きつけられていく。高校生っぽくないと思いつつ、逆に今も昔も高校生の本質はこういう「不安感」なのかもしれないと思った。



④中学生の部グランプリ作品  
「解放サレタ、さあ……」

⑤高校生の部グランプリ作品  
「Change your mind」



|       | 作品名                                                                                                                                                              | 氏名               | 学校名                     |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|-------------------------|
| 中学生の部 | 審査員特別賞                                                                                                                                                           | 未来へ (A部門)        | 小西 彩萌 大阪市立咲くやこの花中学校 2年  |
|       | 部門賞(A)                                                                                                                                                           | 天気の流れ            | 古川 蓉子 百合学院中学校 2年        |
|       | 部門賞(B)                                                                                                                                                           | 進-SIN-           | 小川 紗季 高槻市立第二中学校 3年      |
|       | 部門賞(C)                                                                                                                                                           | なんでもそろろう!うさロボちゃん | 大山 莉奈 百合学院中学校 2年        |
|       | 部門賞(D)                                                                                                                                                           | 「未来図」            | 吉田紗知子 高槻市立第九中学校 3年      |
| 高校生の部 | 審査員特別賞                                                                                                                                                           | あふれる未来の鳥の夢 (E部門) | 張場沙有梨 大阪成蹊女子高等学校 1年     |
|       | 部門賞(A)                                                                                                                                                           | 愛しあってるかい?        | 山城 鈴奈 三重県立飯野高等学校 3年     |
|       | 部門賞(C)                                                                                                                                                           | けいすけ             | 大森 康平 大阪府立布施高等学校 2年     |
|       | 部門賞(D)                                                                                                                                                           | 源                | 森脇 華 兵庫県立芦屋国際中等教育学校 6年  |
|       | 部門賞(E)                                                                                                                                                           | 未来の光             | 山崎 優姫 大阪市立咲くやこの花高等学校 1年 |
| 学校賞   | 中学生の部=大阪市立咲くやこの花中学校・吹田市立南千里中学校・高槻市立第二中学校・百合学院中学校・西宮市立甲陵中学校・伊丹市立荒牧中学校 高校生の部=大阪成蹊女子高等学校・大阪府立北淀高等学校・大阪府立布施高等学校・京都市立銅駝美術工芸高等学校・京都精華女子高等学校・京都府立亀岡高等学校・神戸市立六甲アイランド高等学校 |                  |                         |

## 日展に一挙4名 特・入選



第43回日展(日本美術展覧会)に、彫刻部門で短期大学児童教育学科の紺谷武講師が特選に選ばれました。美術工芸部門では大学芸術学部の阿部緑教授が毎年連続入選され、日本画部門では芸術学部3年生野口春海さん(京都市立日吉ヶ丘高校出身)、芸術学部研究生片倉かすみさん(京都府立乙訓高

校出身)の2名が新入選を果たしました。

2名の学生の新入選という快挙に、指導に当たられた澤野慎平・美術学科教授は「二人とも若くして新入選を果たしたことは大変栄誉であり、特に野口さんは最年少入選で、本人たちの平素の努力と果敢な精神が結果を出し、将来が大きく期待できる。また、苦悩し制作する姿は他の学生にも刺激を与え、周りの学生の作品も成長を見せ始めている」と評価しています。

紺谷講師の受賞理由は「非常に斬新な感覚で椅子と女性像を構成している。女性像の量をおさえることで椅子とのバランスがとれ不思議な空間を醸しだしている。また、机を省くことで、説明的になることを避け内面性を強調している」と評価されています。今年の「第26回国民文化祭・京都2011」で

### 受賞者・入選者と作品名

特選 大阪成蹊短期大学児童教育学科初等教育学専攻 紺谷武講師 彫刻「お喋りな童」  
入選 大阪成蹊大学芸術学部環境デザイン学科 阿部緑教授 工芸美術「うつろい-Amaryllis-」  
新入選 大阪成蹊大学芸術学部美術学科 日本画コース3年生 野口春海さん 日本画「帰道」  
新入選 大阪成蹊大学芸術学部美術学科 日本画コース研究生 片倉かすみさん 日本画「刻」

京都府教育委員会教育長賞に輝いており、今後も活躍が期待されます。

阿部教授は京都市立芸術大学大学院修了。「時のうつろい」をメインテーマに染色表現の可能性を追求しています。国内外の展覧会に染色作品を発表し、京都府文化賞ほか多数の受賞歴があります。

同展の受賞作は、12月4日まで国立新美術館(東京都港区)で展示されるほか、京都市美術館(京都市左京区)でも12月10日~1月13日、披露されます。



紺谷講師の作品「お喋りな童」

### index

|                  |        |
|------------------|--------|
| 韓世大学校と国際交流協定締結   | .....2 |
| 東日本大震災チャリティー寄席盛況 | .....3 |
| 北で南で復興ボランティア     | .....4 |

### ●学園の環境に影響受けた

この度の受賞を本当に嬉しく思います。作品は一人ではできず、環境に影響を受けながらその空気を吸ってできていきます。その意味では1日の半分

### ———特選の紺谷武講師

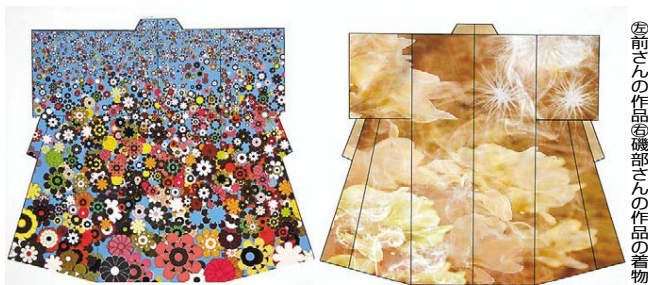
ほど学園で過ごすことの影響も大きかったと思っています。今回受賞にいたる作品を制作できたことに心から御礼と感謝申し上げます。



# Topics

## 大阪成蹊大学

### 芸術学部「THE COMPE きものと帯」 いとへん展で京都市長賞独占



（左）前さんの作品「Flower Movement」

京都を中心とした芸術系6大学の学生デザイン作品展「いとへん展」の特別事業「THE COMPE きものと帯」において、芸術学部環境デザイン学科テキスタイル・ファッションデザインコース4年生の前奏江さんと、磯部由佳里さんが、応募数54点の中から最優秀賞の「京都市長賞」を受賞しました。

前さんの作品「Flower Movement

ent」は、美しい花模様をモチーフに、コンピューターを巧みに使い表現した新感覚の着物作品で、花模様を意識した構成に独自の工夫が見られます。磯部さんの作品の着物「大地の繋ぎ：四十九茶」、帯「輝」は、日本の伝統的な色彩や構図を意識しながらも、新しい雰囲気を感じさせるデザインです。作品の着物と帯は、現在商品化に向けて、制作されています。

## スポーツの目的、役割語り合う

### 開設記念シンポジウム

## マネジメント学部 スポーツビジネスコース

7月1日、本学北館3階プラムホールにて、マネジメント学部スポーツビジネスコース開設記念シンポジウム「スポーツと人間力 ～文武両道の教育～」が開催されました。スポーツと教育に関心のある地域の方や来賓を始め高校生、大学生、教職員など約230名が参加しました。

第1部の基調講演は、同学部客員教授の澤木啓祐・日本陸上競技連盟副会長により「スポーツへの期待」をテーマに行われました。「スポーツをする目的は、人として成長するため、勝つため、楽しむためといろいろである。また、指導者は情熱と使命感と本気が必要で、選手に夢と希望を与えなければならない。スポーツのトレーニングは、不可能を可能にするものであり、未知への挑戦である」と、陸上競技経験に基づく貴重な話をいただきました。

第2部のフォーラムは、同学部の植田真司教授がコーディネーターをつとめ、パネリストに日本スポーツ用品卸商組合連合会理事長・ゼット会長の渡辺泰男氏、びわこ成蹊スポーツ大学副学長・スポーツ学部長の地的修教授、柔道整復師でキネティックフォーラム代表の矢田修一氏、アテネ五輪水泳200mバタフライ銅メダリストで本学スポーツ&カルチャーセンターアドバイザーの中西悠子氏をお招きし、「スポーツの役割を考える」をテーマに話し合われました。

スポーツの役割は、大きく「遊び面」、「健康面」、「経済面」の4つの分野があることを説明後、渡辺氏は「中高年のスポーツは医療費の削減になり、子どものスポーツは競争社会への準備になる」と指摘。地的教授は「寝そべったり食べたりしながら観戦するアメリカのスポーツ文化やスポーツが生きた教材になる」と提言。矢田氏は「勝つことが一番大切なのではなく、勝つために行ってきたことが大切である」と語りました。中西氏は、気持ちが折れると体が動かなくなる経験を紹介し、心の柔軟性と根性の大切さについて説明。各氏が体験を生かして語り合いました。



活発に語り合うパネリストら

### ●教育支援人材育成プログラム

芸術学部では、今年1月に文部科学省の支援事業「教育支援人材認証制度」のプログラム認証を受け、今年度より教育ボランティアの新しい人材である「こどもパートナー」「こどもサポーター」を育成する「教育支援人材育成プログラム」を開始しました。地域の中で活躍する教育支援人材を育成し、大学と地域が連携して新しい教育の可能性を開拓することで、地域コミュニティの「育ての潜在力」を引き出し、そのファシリテーターとしての役割を担っています。

4月より、地域で子どもたちの

### 「こどもパートナー」「こどもサポーター」認証

教育を支援する活動に関心を持つ方を対象に、子どもと関わり合える力を育成する「こどもパートナー」講座を開講。また、本学部生には、より専門的な知識を身につけた「こどもサポーター」を取得できる「ボランティア・スタディ2」を開講しています。現在までに、本学部のプログラムによる認証者は、「こどもパートナー」40名、「こどもサポーター」11名です。6月には認証機関として、「一般社団法人教育支援人材認証協会」が設立されました。本学部の門脇英純教授も運営委員に選任され、本学を含む全国18大学が本認証制度の推進を図っています。

## 長岡京キャンパス最後の大学祭 ―芸術学部―



10月8日・9日の2日間、長岡京キャンパスでの最後の大学祭「SEIKEI ROCK'11笑っちゃいな祭」が盛大に開催されました。メインイベントのファッションショーでは、18作品が披露され、観客を魅了しました。大

賞の「長岡京市長賞」は環境デザイン学科テキスタイル・ファッションデザインコース3年生、高橋香純さんの「きれいにするもの」で、小田豊市長から直接授与されました。

フィナーレでは歴代の総隊長（実行委員長）が舞台上に上がりコメント。それを聞いていた

学生や卒業生たちは、誰もが感動に包まれていました。

こうして「SEIKEI ROCK」はみんなの心に刻まれ、周りの人を笑顔にして13年の歴史に幕を閉じました。（芸術学部学生課長 川勝淑子）

## 韓国・韓世大学校と 国際交流協定締結

調印式に臨んだ  
石井茂理事長ら両校関係者



10月12日、大阪成蹊大学及び大阪成蹊短期大学は韓国の韓世大学校（金聖恵総長）と国際交流協定を締結しました。締結調印は、韓世大学校にて午前11時から石井茂大阪成蹊学園理事長（大阪成蹊大学学長）、武蔵野実大阪成蹊短期大学学長と金総長の3者で実施されました。

この国際交流協定の締結に先立ち、大阪成蹊学園は8月1日に国際交流の申し入れのための金総長らの表敬訪問を受けました。石井理事長、伊藤一比古常務理事、佐藤英夫常務理事、武蔵野学長らの学園幹部で歓迎の意を表し、申し入れを受諾しました。この答礼として、韓世大学校を訪問し、調印を行いました。

韓世大学校は韓国首都圏内の京畿道車浦市にある総合私立大学で、約3700名の韓国人学生と約400名の留学生が通っています。1990年に正規神学大学として改編され、98年に韓世大学校と改名。現在、7学部（神学部、メディア映像学部、経営学部、人文社会学部、IT学部、音楽学部、デザイン学部）と1学科（看護学科）、一般大学院（修士、博士）、特殊大学院（ヨンサン神学大学院、教育、社会福祉、ピアノ・ペダゴジー、警察法務、親環境デザイン、経営）を持ち、韓国の総合私立大学として内外から高い評価を受けています。また、同校は理論と実務能力を兼ね備えた人材養成を目指して学生教育に専念しています。経営やITはもとより音楽、映像メディア、デザインの教育に力を入れており、大阪成蹊学園と多くの面で共通点があります。さらに、国際化の面では韓国内の大学のみならず、アメリカ、ドイ

ツ、オーストラリア、中国など21カ国52大学に及ぶ国際交流を実施しており、韓国国内で最高水準を誇っています。

大学の教育方針は、グローバルな力量を備えた人材養成を目標として、さまざまに特化した教育プログラムを実行し、「世界の韓世大学」を創るということです。

主な協定内容は、相互の友好関係を深めること、学術研究並びに学生の教育を高めることであり、以下の諸活動を行うものです。

- 1) 教員及び学生の相互交流
- 2) 教育内容及び教育方法に関する情報交換
- 3) 学術資料、刊行物その他学術情報の交換
- 4) 共同研究およびその他教育研究において価値あるものと認められる活動

調印後に大学内の施設、研究室、授業内容を見学し、学生の真剣なまなざしを目の当たりにしました。特に、音楽家として著名な金総長の授業でピアノ演奏を聴かせていただき、感激しました。

（教育推進本部 松田貴典）



## Topics

## 大阪成蹊短期大学

東日本大震災チャリティー寄席  
盛況

## 募金総額 9万5542円 桂春蝶先生独演会

7月2日、大阪成蹊短期大学非常勤講師、桂春蝶先生の「東日本大震災チャリティー寄席」が開かれました。

桂先生は「人間と文化」という科目を担当しておられます。授業の中で東日本大震災被災者支援の「チャリティー寄席」企画が発案されたのが4月当初。桂先生はTV出演などで多忙ながら、スケジュールの合間を縫っての公演をお願いしました。

5月初旬より「チャリティー寄席実行委員会」が短大創造文化科学科学生と大阪成蹊大学マネジメント学部学生たち25名で作られました。公演当日は熱心な落語ファン、地元の方々も含めて150名を超える来場者を迎えました。

演目は「こもうり」「山内一豊と千代」「紙入れ」の3席でした。独特の色気のある話芸を来場者は満喫。アンケートに「学生の方々の対応がとてもしっかりとおり、挨拶に胸をうたれた」という文章があり、開催した意義があったことを実感しました。

なお、来場者の寄付9万5542円はすべて実行委員会名で毎日新聞大阪社会

事業団に東日本大震災救援金として送付しました。末尾ながら地元、相川町町内会、相川コミュニティ委員会、大阪成蹊大学関係者、大阪成蹊短大関係者各位のご協力に感謝します。



盛況だった桂春蝶先生の  
東日本大震災チャリティー寄席

## シェフ3名の競演に高校生歓声

## 大阪成蹊フードフェスタ

シェフの手さばきを熱心に見つめる参加者



総合生活学科の食物コース（調理クラス・フードコーディネートクラス）、栄養コースと、大阪成蹊大学マネジメント学部食ビジネスコースとの共同開催で7月17日、食のイベント「大阪成蹊フードフェスタ」が開催されました。食物コース教員である3名のシェフが、それぞれ専門の日本料理、フランス料理、イタリア料理で「海の幸」をテーマに渾身の一品による料理対決を実施。人気投票が行われ、最も人気の

あった料理を選んだ参加者だけが試食できるというドキドキの企画です。

鯛や帆立貝、生きたオマール海老を目の前で調理。鮮やかな包丁さばきを披露しました。栄養やビジネス的な観点からの解説や、それぞれの料理に合わせたテーブルコーディネートも行われ、100名を超す参加者で会場は熱気に包まれました。お目当ての料理が食べられるか、人気投票はスリルいっぱい。でもそこはサプライズで、参加者全員に選んだ料理が振る舞われ、改めて笑顔があふれました。

参加した高校生からは「シェフの手さばきがすごかった」「設備が良く、ここなら料理の技術を磨けると思った」「とても美味しかった」などの感想が寄せられ、イベントは大成功。相川キャンパスの食分野の学びが、さらに発展していくことを予感させるイベントでした。

## 上位3名をオープンキャンパスで表彰

## ファッションデザイン画コンテスト



総合生活学科生活デザインコースでは第1回高校生ファッションデザイン画コンテストを実施しました。テーマは「あなたが一度着てみたい服」。北

海道から九州まで、ファッションに興味を持つ高校生や絵が得意な高校生から多数の応募がありました。25点の優秀作品を選定したうえで、特に優れた3名の高校生を8月7日のオープンキャンパスに招待し、石井茂理理事長と武蔵野賞学長から表彰状を渡しました。最優秀作品は色柄や素材感豊かなリアリティーあるデザイン画で、2位作品は和と洋の組み合わせと色使いが秀逸でした。3位作品は男っぽいデザインの中に女性らしい細やかさを感じさせるものでした。このコンテストは来年度も実施する予定です。

## こみち幼稚園

## 達成感を味わって

子どもが廊下で転びました。それを見て慌てて駆け寄り優しく声をかけ、抱き上げて保健室に向かうA先生。片や、子どもが転んでもじっと見ているB先生。この現場だけを見ると、おそらく大半の人間は、A先生を高く評価するでしょう。しかし、その後の様子を見てみると、B先生が見ていた子どものところには、クラスの子どもが駆け寄り、「一生懸命助める子ども」「近くにいる保育者に報告に行く子ども」と周りの子どもの活動が騒しくなります。また、B先生には、ある思いがありました。「転んだ子どもがクラスになかなか溶け込めず、友だちとのかわりができていなかった」。そこまでわかって「なるほど」と、B先生の行動は評価されます。本園でも、「優しい先生」とは一体どんな先生なのかを話し合うことがあります。「だっこしてくれる先生」「保護者の要求をすぐに応えてくれる先生」???

運動会前年ある年長の保護者から担任に、電話が入りました。「うちの子どものリレーのチームがいつも決勝に進めないからチームを替えて欲しい」と。担任の心は「替えなくていいですよ」と決まっていた。リレーで思い出したエピソードがあります。当時は、男女に分かれたのクラス対抗リレーをしていたのですが、運動会前日にR君が足に怪我をして包帯を巻いて登園しました。母親からは、「どうしてリレーに出ないって言うんです」と泣きながら電話がありました。そのチームは、4クラス中いつも2位でしたが、毎日毎日リレーに明け暮れていた

ました。R君に「足痛いやらな？ 代わりにY君に2回走ってもらおうか」と尋ねてみましたが、「走りたい」の一点張り。それを見ていた男児が全員集まって「先生、R君走らせて！」「と懇願します。そして、R君本人に、「R！俺らが抜かしたから、ゆっくり走っていいよ」と話しました。なんだか青春ドラマのひとコマを見ているようにしたが、子どもたちが任せることにしました。そして、当日は見事R君も走り切り、ダントツ1位となりました。

今回のクラスでも、「みんな作戦会



議や」と日々子どもたちで話し合い、順番を入れ替えたりしたことで、「先生、今日は1位やっつてんで」と笑いながら言いに来る日もありました。本番は、本当に白熱した展開となり、どの保護者からも、「リレーがすごかった」と言っていたことができた運動会でした。親は、子どもに痛い思いなどさせたくないということで転ばぬ先の杖を差し出して、子どもの「やってみよう」という意欲を取り上げてしまっていないでしょうか？「できないことにも何度も挑戦し、できるまであきらめない」という粘り強さを育ててほしい。そして、「やった！できた！」という時の達成感をいっぱい味わってほしいと願う日々です。

(教頭 井上扶美)

## 大阪成蹊女子高等学校

## 元気に 成蹊フェスタ

前日の雨もすっかり上がって気持ちの良い秋晴れの10月1日、成蹊フェスタが行われました。本校の元気な姿を知っていただく始めたフェスタも今年で6回目。多くの方に楽しんでいただけたようになり、すっかり地域に定着したお祭りとなりました。

バトントワリング部やダンス部、短大・大学の教職員と吹奏楽部によるコラボ演奏、また大阪成蹊スポーツアカデミー新体操教室の発表。そして、幼児教育コースによる人形劇とブラックライトシアター。スタートからラストまで大盛況でした。

最後になりましたが、成蹊フェスタを実施するにあたり生徒、保護者の皆



さま、教職員並びにご協力いただいた関係各所の皆さまのお力をお借りできましたこととお礼申し上げます。ありがとうございました。

(募金広報企画室 仲間志訓)

大阪成蹊女子高等学校吹奏楽部が、今年の夏行われた「大阪府吹奏楽コンクール北地区大会高校小編成の部」において優秀賞をいただきました。部として3度目のエントリでした。

初めての年は慣れない場に緊張し、不安だらけで挑みました。そして当時1年生だった部長・副部長は今年3年生。経験を生かして後輩をリードしてくれました。

部内には初心者と経験者がいるため、個々の技術に差があります。初心者は打楽器から練習を始めリズム感を養い、楽譜の読み方を学びます。次に腹式呼吸を練習し、段階を経て楽器練習に入ります。音階や基礎練習を徹底し、全体合奏に入れるまでテストをします。部員はコンクール曲を早く演奏したいという思いから、熱心に練習をします。

今年は初めての学内合宿を3年

生が中心となり行いました。コンクールの4日前から前日にかけて、朝から晩まで練習。演奏だけでなく音を聴く力、舞台での振る舞い方を練習、強化しました。観客や審査員の聴こえ方を体感して演奏に生かせるように心がけました。

3年前は8人だけだった部員数が今では25名に増え、用意していた楽器が足りなくなるほどです。音の大きさも技術も、大幅に向上しました。最後になりましたが、指導してくださったコーチの先生方、サポートしてくださった保護者の皆様、高等学校の先生方への感謝の気持ちは忘れません。北地区優秀賞がゴールではありません。関西大会出場に向けて、音楽を楽しみながら部員一同これからも練習に励んでいきたいと思います。

(吹奏楽部顧問 太田真菜)

## 吹奏楽部が

## 大阪府北地区で優秀賞



# Topics

## びわこ成蹊スポーツ大学

がれき撤去に取り組むボランティアの学生ら

### 学生、教職員が連携 見せたスポーツの力



### 北で南で「がんばろう！日本」 復興ボランティア

東日本大震災から8カ月が過ぎました。被災地の復興支援や原発事故、放射能汚染対策など総額9兆2400億円の

のぼる政府の震災復興予算がまとまりましたが、びわこ成蹊スポーツ大学ではこの夏、学生、教職員が「スポーツ

を通じて被災者を勇気づけよう」とさまざまなボランティア活動を展開しました。

硬式野球、サッカー、陸上、硬式テニス部、ボランティアサークルなど約150名が参加した岩手のボランティア活動は、8月中旬から4グループが交代でそれぞれ1週間ずつの活動に取り組みました。がれきの撤去や草刈りなどの農作業、仮設住宅の即席カフェで被災したお年寄りにお茶をサービスしたり、話し相手になったり。サッカー部の学生らは、保育園や幼稚園を巡回し、日ごろから地元で推進しているキッズプログラムを活用して幼児たちに体を動かす楽しさを教えました。ボランティア活動の拠点になったのは遠野市でしたが、全員が公民館で合宿し、早朝から津波被害の大きかった陸前高田市、大槌町などへ出かけて復興作業に汗を流しました。活動に参加した競技スポーツ学科の若吉浩二学科長は、学生らの取り組みを地元紙のコラムで「学びは常に社会とのつながりにある。この言葉通りに学生たちが支援活動に汗を流す姿を見て、私自身大きな感動だった」と紹介しました。

南の沖縄では、「2011夏休み青少年支援プロジェクト」に参加。生涯スポーツ学科野外スポーツコースの黒澤毅准教授が学生15名とともに7月26日から約1カ月にわたって、原発事故で心に大きな傷を負った福島県下の小、中、高校生ら110名が招かれた沖縄キャンプで子どもたちを勇気づけました。ド

イツの義援金を受けたこの事業は、黒澤准教授が中心になって創意工夫を凝らしたキャンププログラムを組みました。夏休みの宿題など学習支援から、挨拶や礼儀など毎日の生活指導や課外活動としてサッカーの指導を行ったほか、野外活動では沢を登ったり、海に潜ったりなど24時間のほとんどを子どもたちとともに過ごしました。

震災による原発事故のあと、なるべく外気に触れないように生活した子どもたちにとって、沖縄の自然は「子どもらしさ」を取り戻す貴重な時間になりました。白く輝く砂浜で寝転がり、胸いっぱい新鮮な空気を吸い、南国の太陽の下で思い切り日焼けしました。運動会や地元の少年チームとの交流試合もありました。キャンプを通じてたくましくなった子どもたちの姿に、参加した保護者の多くが涙したそうです。黒澤准教授は「福島に帰ったとき、わずか1カ月でも沖縄で培ったたくましさは、被災の現実をしっかりと見据え、強くたくましく生きようとする気持ちを育んでくれるのではないだろうか。日本の将来を担う子どもたちに、大人がその方向性をしっかり示してやらなければ、『がんばろう！日本』は表面だけの言葉になってしまう」。沖縄から戻った黒澤准教授は、支援活動を一過性のボランティアに終わらせるのではなく、本学独自で取り組み、今後も継続させる方策を学生らとともに模索しています。

## ロンドン五輪へ「夢をもう一度」

望月聡一  
(競技スポーツ学科准教授)



なでしこジャパン  
緑の下の力持ち

奇跡を起こした女子サッカーW杯世界一の凱旋からロンドン五輪出場への険しい道も乗り越えたなでしこジャパン。強く、たくましいイレブンを佐々木則夫監督とともに支えてきたコーチが本学の競技スポーツ学科スポーツ情報戦略コースの望月聡准教授。1年後に迫ったロンドン五輪でも一つの夢にかけています。

6歳年上の佐々木監督との二人三脚は来年のロンドン五輪を迎える時は5年目になります。「不思議な縁で結ばれている」という二人の関係は、望月コーチがJリーグのコーチ時代から。豪州に遠征する飛行機にNTTの佐々木監督(当時)と乗り合わせたのがきっかけで意気投合。ヴィッセル神戸のコーチを退くとき佐々木監督に相談したところ大宮アルディージャの育成部門に誘われ、二人で組織づくりを担いました。望月コーチは「運命を感じるというか、不思議な絆で結ばれている気がする」。

2007年末、佐々木監督がなでしこジャパンを率いることになった時真っ先に声がかかり、迷わず女子サッカーの世界に飛び込みました。アジアで「なでしこ」が頭角を現し、08年の北京五輪4位から今年7月のドイツW杯初制覇へと大躍進したのはご存じの通りです。

W杯で優勝するまで、望月コーチはフィジカルトレーニングから戦術分析、選手らのレベルチェックなどの仕事をこなしてきました。

「W杯の優勝は私も最初奇跡だと思ったけれど、よくよく考えて

みると奇跡ではないことに気がついた。選手らも感じていたけれど、4年間チームが一つになって取り組んだ成果を振り返ると奇跡でなくきちんと描いてきた軌跡だった」と振り返ります。

9月の五輪予選で内容の悪い試合が続き、予想以上に苦戦しました。「練習、調整不足の選手ばかり。岡山の合宿から本番まで宿舎で分析をやったが、選手らは疲れたまっぴでビデオなどまともに見る余裕すらなかった」といいます。それでも予選を1位通過したのは「悪い内容でも勝てる力を備えてきた。W杯の目に見えない自信」のたまものだそうです。

ロンドン五輪への期待が高まりますが、望月コーチは「五輪本番まで時間はたっぷりある。若手も伸びてきているから五輪に向けてしっかりしたチームづくりができる。基礎の部分ではできあがったから、あとはしっかりした骨組みをみんなで考える」と本番までの青写真を佐々木監督とともに描いています。「世界一は奇跡ではなく、軌跡の産物」と言う望月コーチは「五輪もその延長上にあると思う」。コーチ陣となでしこ選手が築いた絆は、ロンドンでも大輪を咲かせそうです。

.....

望月コーチの話

五輪予選は本当に苦しかった。佐々木監督は「負けたらやめる」覚悟だったらしい。韓国や北朝鮮に追い込まれ、宿舎で佐々木監督らスタッフのなかには、シャワーを浴びているとき頭の毛がごっそり抜け落ちた人もいた。私はスキンヘッドがトレードマークだから、みんなの心配を一手に引き受けた。それぐらい、しんどい試合だったけど、それでも1位通過。悪いなりに結果を残せた自信は、五輪本番につながるはず。



のびのび楽しむ子どもたち

## 大阪成蹊学園

路上喫煙防止地区指定 全国初の取り組みへ

本学園が相川地区の  
マナー向上に協力



先日、相川町内の路上喫煙マナー向上を目的に、地元町内会(相川中・北・南町会・相川オリーブ町会)と「大阪高等学校」、「大阪成蹊女子高等学校」、「大阪成蹊大学・短期大学」から委員が選出され『学生の街 相川』マナー向上委員会が発足しました。大阪市の「たばこ市民マナー向上エリア制度」に登録・承認され、12月1日から本学所在地の大阪市東淀川区相川地区全域(地図の黄色の部分)が路上喫煙防止地区となります。

大阪市が進める「たばこ市民マナー向上エリア制度」は、地域の市民・事

業者が主体となり、自主的に路上喫煙の防止活動に取り組む活動で、その活動を大阪市からの支援を受け行政と協働することで、地域社会におけるマナー意識を高め、安心、安全で快適なまちづくりを進める全国初の取り組みです。また、教育機関がこの制度に参加すること全国初とのことです。

地元住民の方とともに、街頭啓発活動や啓発ポスターの掲示、リーフレット・ティッシュの配布、マナーエリアの表示・ステッカーの設置などの活動を行い、相川地区を過ごしやすい気持ちのよい街にしていきたいです。